



Friday Night Science 令和4年度

大学生のための科学技術史講座

「日本の科学技術」

「日本通」になろう。
知っているようで知らない、奥深い世界。
科学技術史をのぞいてみませんか。



令和2年度受講者の声（一部抜粋）

※令和2年度は、オンラインで実施しました。

館内の展示や館周辺の建築にスポットを当てた講義は、後日実物を見ることで復習ができた。

自宅で受講できるので、気軽に参加できた。参考資料が見やすく、講義を聴きながら理解できた。

今までイメージできていなかった昔の科学技術や科学者について知ることができ、とても面白かった。

科学技術史を学ぶことで、今の日本の科学技術がなぜこうなったのかというつながりが見えてきてとても有意義だった。

科学技術史に関する知識はあまりなかったが、分かりやすい講義で多くのことを学ぶことができ、視野を広げるきっかけになった。

対象：主に大学生・院生・専門学校生（一般の方も受講いただけます）

実施方法：オンラインでの講義（オンライン会議アプリ Zoom を使用予定）

※国立科学博物館に来館して行う集合型講義ではありません。

開講期間：令和4年10月～12月まで 全6回

原則第2・4 金曜日の18:00～19:30

募集人数：50名程度

受講料：12,600円*大学パートナーシップ入会校の学生は6,300円

※この講座は6回の連続講座です。1回単位での受講はできません。

★「大学パートナーシップって何？」

「私の大学はパートナーシップに入っているのかわからない」

そんなときは、こちらで一覧をご確認下さい。

下記の国立科学博物館ウェブページからもご確認いただけます。

<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/>

※入会校は、随時更新されます。



受講までの流れ

① お申込み

国立科学博物館 大学パートナーシップ「大学生のための科学技術史講座」のウェブページからお申込み下さい（WEB 受付）。
<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/technography/>



※申込み受付開始は、6月下旬を予定しています。

申込み締め切り：**令和4年9月20日(火) 12時**

② 受講者決定

受講申込者には、9月26日(月)までに、受講の可否をメールでお知らせします。

応募者多数の場合には、「大学パートナーシップ」入会校の学生を優先させていただきます。あらかじめご了承ください。

③ 受講料のお支払い

受講料のお支払いなど詳細は、受講決定通知と共にご案内いたします。

お問合わせ先

国立科学博物館 事業推進部学習課

【国立科学博物館 大学パートナーシップ】担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

TEL：03-5814-9876 E-mail：upartner@kahaku.go.jp



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

National Museum of Nature and Science Friday Night Science

大学生のための 科学技術史講座

「日本の科学技術」



国立科学博物館は、自然史及び科学技術史研究に関する中核的な博物館であり、それらの研究成果を積極的に教育事業として発信しています。科学技術史研究の成果発信の場として開講する「大学生のための科学技術史講座」は、我が国の産業、文化を支えてきた世界に冠たる日本の「科学・技術」にスポットを当てた講座です。

Curriculum カリキュラム

第1回 10月14日(金)

産業技術史資料情報センター長 前島 正裕

日本の科学技術・産業技術の概論

明治時代以降の日本の科学技術及び産業技術の発達を概観しつつ、電力や家電など、身近な技術をいくつか取り上げ、発達のそれぞれの様相に焦点を当て、概説します。

第2回 10月28日(金)

理工学研究部 科学技術史グループ 研究主幹 久保田 稔男

日本の近代建築

洋の東西を問わず、建築は人類の生存にとって欠くことのできない存在です。世界各地で地域の気候に根ざした独自の建築が造られてきましたが、文化の交流に伴って、時に影響しあい、時に反発して建築も多様に変化しました。日本の建築も例外ではなく、特に明治以降、文明開化のかけ声とともに西洋の建築技術が流入し、伝統的な建築とは異なった、新しい建築が各地に建てられ、現在に至っています。上野公園にある建築を題材に、日本の近代建築の歩みを概観します。

第3回 11月11日(金)

理工学研究部 科学技術史グループ 研究員 河野 洋人

科学語彙の変遷から見る日本と科学の出会い

日本は幕末から明治期にかけての近代化の過程において西洋科学を受容していった、としばしばいわれますが、それまでの文化的・学問的実践に立脚しつつ、それとは異なる西洋の学問を理解し受け容れていくにあたっては、多くの困難や葛藤がありました。本講義ではこの一断面に、主として物理学関係の科学用語の変遷をたどることから、光を当てます。

第4回 11月25日(金)

理工学研究部 科学技術史グループ 研究員 馬場 幸栄

日本の科学技術を支えた女性計算係たち

近代日本において計算係として科学技術の発展に貢献した女性たちをご紹介します。電子計算機がなかった時代、天文学や気象学などの分野では、膨大な量の計算が手作業で行われていました。そして、その計算作業を担っていたのは主に女性たちでした。彼女たちの献身がなければ現在の科学技術の発展はありません。女性たちはどのようにして計算係となったのか、具体的な事例を挙げながら解説します。

第5回 12月9日(金)

産業技術史資料情報センター 参事役 亀井 修

SDGs と科学技術

産業技術史の視点から SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) について考えます。地球の行く末を人が意識しなければならない時代 = アンтропоシオン (Anthropocene、人新世) と、それをもたらした技術・科学・産業をキーワードにして、近未来を含む現代の科学技術を概観します。

第6回 12月23日(金)

理工学研究部 科学技術史グループ長 沓名 貴彦

博覧会からみる日本の近代化と科学技術

2022年は、明治政府文部省博物館による最初の博覧会から150年にあたります。日本の近代化に博覧会は、大きな役割を果たしました。博覧会の中心地は、科博のある上野公園です。上野公園で開催された博覧会を中心に、博覧会から日本の近代化と科学技術について概観します。